



# ISHINOMAKI LOCAL VENTURE

2019

石巻ローカルベンチャー白書

コンソーシアム ハグクミ

## ローカルベンチャーがローカルベンチャーを生む街 石巻

海や山、農業に適した広大な平地をはじめ豊かな自然を有する石巻では、様々なローカルベンチャーが活躍しています。ローカルベンチャーとは、地域の資源を活かし、これまでなかった視点で地域に新たな経済を生み出し、ビジネスとして成長させていく存在。自社の利益の追求だけでなく、地域全体の価値の向上につなげ、地域の暮らしを豊かにしていきます。

もともとベンチャーという言葉はアドベンチャーに端を発しています。既存の価値体系ではなく新たな価値をつくる冒険的な試み。そういう意味で、すでに石巻では震災復興という文脈だけではないさまざまな挑戦が起こりはじめています。

今号ではそうした動きに触発されて、新たに石巻で挑戦するフレッシュマンたちにフォーカスを当てた特集を組みました。東日本大震災から8年を経た今、復興のためという意識だけではなく、自らの挑戦のために新たに地域

に飛び込み、事業を創(はじ)める若者も増えています。ではなぜ石巻で新規事業を起こすのか。それは、社会的な正しさだけでなく、未来に向かおうとする健全な冒険や挑戦、取り組みが多く人が共感し、可能性を感じているからこそ、多くの人がこの街を選び始めているのではないかと考えます。

石巻という言葉は英語にすると「ロックンロール」に通じると、ある人が言い遺しました。足繁く石巻に通っていたロッカー内田裕也氏の言葉です。彼の言葉を借りるならば、そんなロックンロールなまちで冒険するローカルベンチャーが増え始め、大きな渦ができるのが今の石巻です。そしてローカルベンチャーは石巻に内在する様々な資源のみならず、内外の多種多様な人びと、そして石巻の未来を巻き込みながら成長しています。ローカルベンチャーが新たなローカルベンチャーを生む街、石巻の動向を、本誌を通じて少しでも伝えられればと思います。

### 1 P.01 石巻ローカルベンチャーマップ

### 2 P.03 石巻フレッシュマンズ

- P.03 川村はるか(フィッシャーマン・ジャパン)  
P.05 石渡賛大(日本カーシェアリング協会)  
P.07 平野亜紀(ウィーアーワン北上)  
P.09 吉川恭平(子どもにやさしいまちづくり)

### 3 P.13 石巻ローカルベンチャーリサーチ2019

### 4 P.23 ハグクミ ローカルベンチャーサポートプログラム紹介

石巻まちのコンシェルジュ／東京脱出旅行社石巻支店／石巻2025会議／とりあえずやってみよう大学／石巻版松下村塾／石巻オモシロ不動産大作戦／NEXT HERO ISHINOMAKI／ホームページ「石巻を選ぶ」

# 1

## 石巻ローカルベンチャーマップ

石巻には豊富な自然資源を活かしたローカルベンチャーが多く存在します。第3章のローカルベンチャーリサーチで調査した24社をマッピングしたものが右図です。広大な石巻市域をフィールドに多様な活動が展開しています。



# 2

## 石巻フレッシュマンズ

石巻のローカルベンチャーで活躍する若きスタッフに焦点を当て、ローカルベンチャーの魅力やこれからの展望、可能性について考えていきます。なぜ今石巻に飛び込み、どんな仕事を経験しているのか？石巻で活躍し始めた新たな人材の日常を特集していきます。



## 新卒で飛び込んだ「水産業の世界」

水産業のカッコよさに可能性を感じ大学卒業と同時に石巻に飛び込む

### 川村 はるか

フィッシャーマン・ジャパン



川村 はるか かわむら はるか

仙台市出身。大学では「表現」することについて学び、卒業後の2016年一般社団法人フィッシャーマン・ジャパンに就職。EC事業部部長。趣味は演劇鑑賞とアクセサリーブッキング。



牡蠣の出荷シーズンのはじめは自分たちで味見し、商品の確認をしている。

この日は牡蠣漁師の鈴木一樹さんから商品を受け取りに牡鹿半島の牧浜を訪れた。

仙台出身の川村はるかさんは2016年4月から新卒採用でフィッシャーマン・ジャパンに飛び込んだ。フィッシャーマン・ジャパンが目指すのは、これまでキツい、汚い、危険と言われてきた水産業を、「カッコよくて、稼げて、革新的」な新3K産業に変えること。後継者不足で悩む水産業界の新たな担い手の育成や、新たな販路の開拓、漁師から直接仕入れた海産物を使ったレストランの運営など、水産業の可能性を広げる様々なプロジェクトを展開している。

大学4年生の12月に仙台市で開催された合同企業説明会でフィッシャーマン・ジャパンのスタッフにたまたま出会う機会があり、団体のパンフレットやプロモーションビデオを見て、水産業でもこんなにカッコいい表現をしている人がいるんだという驚きがあったという。その後、大学で地域ブランドティングに取り組んだ経験を活かし、卒業と同時にフィッシャーマン・ジャパンに就職することに。

若い漁師の担い手育成のための「トリトンプロジェクト」に携わり、移住した漁師たちの住まいであるシェアハウスの改装を手伝うことからスタートした。現在はフィッシャーマン・ジャパンの漁師が直接消費者に販売するECサイトの運営をしている。インターネットを通じて海産物の注文を受け、漁師とやりとりをする。商品の写真を撮影してサイトにアップし、魅力的なホーム

ページをつくることも仕事だ。

11月から4月は牡蠣が主力商品。取材当日は牡鹿半島の牧浜まで自動車を運転し、牡蠣漁師から商品を受け取り、その後事務所に移動し初出荷の牡蠣の味を確かめた。取り扱う商品を直接確かめ、積極的に関わながら、できるかぎり自分で発送もする。

今まで購入していない人はもちろん、ただ海産物を購入するだけではなく、「フィッシャーマン・ジャパンが売っているから間違いない！」「フィッシャーマン・ジャパンメンバーの海産物はおいしい！」と思ってくれる人が増えるような商品づくりや発信をしていくことを目指している。水産業に興味がない人でも、フィッシャーマン・ジャパンの名前は知っているという人が増えることになればいいなと話す。

注文にとても美味しかったというコメントを添えてもらったり、年配の方から電話でお礼を言われることもあるという。「一度違いをわかってもらえると、継続して注文してくれるお客様も多い」と語る川村さん。触れ合う漁師たちの気さくさに、水産業に抱いていたイメージも大きく変わったという。そしてまだまだフィッシャーマン・ジャパンを通じて、水産業に貢献できればと考えている。

### 川村さんのある1日

- 6:30 起床
- 8:30 事務所のそうじ
- 9:00 ミーティング
- 9:30 インターネット注文をチェック
- 12:00 ランチタイム
- 13:00 漁師さんに会いに浜へ
- 15:00 受け取った商品を配送所へ
- 16:00 事務所へもどり残りの発送作業
- 17:30 終業 電車で仙台の自宅へ帰宅



石巻駅ちかくの古民家を改装したオフィスが職場だ。



フィッシャーマン・ジャパン

宮城県石巻市千石町8-20

電話 0225-98-7071

設立/2014年7月 スタッフ/22名

[www.fishermanjapan.com](http://www.fishermanjapan.com)



## 石巻を社会的企業の先進地に

人々の善意を原動力に新しい活動モデルをつくる

### 石渡 賢大

日本カーシェアリング協会



活動用の自動車をメンテナンス。自動車には団体のロゴマークがはいる。



オフィスは石巻駅近くの住宅地。福島県の仮設住宅を移転した木造の建物だ。

#### 石渡 賢大 いしわたり けんた

千葉県茂原市出身。慶應義塾大学を卒業後、損害保険会社に5年間勤務したのち、NPO活動に興味を持ち退職。海外留学を経て、2017年9月より石巻市地域おこし協力隊として日本カーシェアリング協会の活動に参画する。趣味はテニス、海外旅行。

千葉県出身の石渡賢さんは、2017年9月から地域おこし協力隊として日本カーシェアリング協会に飛び込んだ。大学生のとき東日本大震災が起り、震災や今後の災害に備えられる仕事に就きたいと考え、損害保険会社に就職した。被災地の役に立ちたいと、宮城県仙台市に配属を希望し、交通事故の示談交渉の業務を担当していました。

そこで交通事故の悲惨さを感じ、交通事故を減らすために自分で何か出来ないかという思いと、被災地の役に立ちたいという思いを抱いている時に、日本カーシェアリング協会の取り組みと出会った。同協会では寄付で集めた車を、仮設住宅や復興公営住宅に設置し、住民同士でグループを作ってシェアする「コミュニティ・カーシェアリング」をおこなっている。コミュニティ・カーシェアリング導入地域では、住民同士が乗り合いで買い物や旅行に行ったり、外出支援がおこなわれるなど、住民が主体となる共助の活動が広がっている。この仕組みが全国に広まることで、高齢者の交通事故が減るのではと考え、まずはボランティアで参加。活動するうちにもっと力になりたいと思い、NPOの資金集めの勉強もした。そんな折に地域おこし協力隊としての募集枠が同協会から発表されると、迷わず応募した。日本カーシェアリング協会では、災害を受けた地域にカーシェアリングの仕組みを届ける「モビリティ・レジリエンス」という事

業をおこなっている。石渡さんが同協会に着任してからも、災害支援を二度経験した。平成29年九州北部豪雨と、翌年の平成30年7月豪雨の時だ。水害によって車が水没し、車が使えず困っている人達に向けて車の寄付を募り、カーシェアリングの仕組みを活用し、寄付車を貸し出していった。

この仕事のやりがいについて、石渡さんはこう語る。「人の善意が僕らの仕組みの源泉になっている。車を寄付する人がいて、その車が困っている人の所に届けられ、良かったと喜んでもらえた時に、やりがいを感じます」。そう話す石渡さんの表情はとても穏やかだ。

カーシェアリングは被災地だから必要なのではなく、高齢化や過疎化が進み、移動やコミュニティに関する課題を抱える場所にも応用可能だ。石巻で出来上がった仕組みを、そうした地域に届けていけるようになることを目指している。「石巻は震災の後たくさんの中NPOが生まれ、行政ではできない役割を担ってきた。石巻という場所がNPO活動の場として先進的な場所になれたらいい」と話す石渡さん。人々の共感を力にして、社会の課題を解決するといった震災後の石巻の活動モデルが、他地域へどんどん広がっていくと共に、そういったNPOが伸び伸びと活動できるような場を作りたい。石渡さんにはこうした強い思いがある。

#### 石渡さんのある1日

7:00	起床
9:00	出社、朝礼 利用者への連絡
9:30	レンタカー貸出対応
10:30	企画書作成
12:00	お母さんスタッフによる料理で社内ランチ
13:00	NPOや企業との打合せで外出
17:00	SNS投稿記事作成
18:00	終業
19:00	スーパーで食材を買って帰宅、料理
24:00	就寝



#### 日本カーシェアリング協会

Japan Car Sharing Association

#### 一般社団法人

#### 日本カーシェアリング協会

宮城県石巻市駅前北通り一丁目5-23

電話 0225-22-1453

設立/2011年7月(活動開始2011年4月)

スタッフ/11名

[www.japan-csa.org](http://www.japan-csa.org)



## コミュニケーションの力で 地域の健康を守る

看護師として取り組む地域住民の健康を活かした地域づくり

### 平野 亜紀

ウィーアーワン北上



**平野 亜紀** ひらの あき

大分県大分市出身。熊本の病院勤務を経て、2018年8月より石巻市地域おこし協力隊としてウィーアーワン北上の活動に参画し、コミュニティナース事業の立ち上げに取り組む。趣味はおいしいお店めぐりと読書。



看護師や社会福祉士の知識を活かしながら地域に関わっている。

社会福祉協議会の主催する生きがいデイサービスに参加。

大分県出身の平野亜紀さんは、看護師として勤務していた熊本県の病院をやめ、2018年8月に石巻市地域おこし協力隊として、同市北上町で活動するウィーアーワン北上に参画した。同団体では地域住民の日々の暮らしと健康を守るコミュニティナース事業の立ち上げを計画。平野さんはこれまで培って来たコミュニケーションの技術を活かして地域づくりに取り組み、その経験や技術を地域で広めたいと考え、応募した。

「身近にひとりでもしっかりと話を聞いてくれる人がいたら、救われたり癒されたりすることはきっとある」と平野さんは語る。自身も以前、病院で看護師をしていた時、亡くなつてゆく患者や、大切な人を失つた方々にどうやって接するのかを悩む当事者であった。そんな時に誰かに話を聞いてもらえることで、気持ちが楽になるとともに、問題にむけてどうやって解決していくかという前向きな気持ちが芽生えてきた経験があった。平野さんの考えるコミュニケーションの技術とは、決して専門的で難解なものではなく、丁寧に相手の話を聴き、対話をすること。自分が救われたコミュニケーションの大切さを伝えていきたいと思った。被災地だから、被災者だから、ということではない。いつどこの時代でも、それは人間にとって必要なことだと考えている。

コミュニティナース事業の立ち上げという容易ではないプロジェクトを重荷に感じた時もあった。だからこそ、まずは自分のことを

地域の人に知ってもらおうと思い、社会福祉協議会や行政委員に協力してもらしながら、地域住民が集まる機会を持ちはじめた。そこでは集まつた人たちと健康に関する勉強をしたあとに、平野さんの故郷の大分の郷土料理をふるまうこともある。コミュニケーションを取る中で、自分が看護師であることを打ち明けると、身体の具合のことなど、ちょっとした相談をされる場合も多い。もちろん健康の問題だけではなく、それぞれが抱える悩みや葛藤についての相談を受けることもある。家族や親族でもなく、ご近所さんでもない第三者だからこそ聞かせてもらえる話も多い。

今後は地域で活動する団体や医療・福祉分野の方々に向けて、コミュニケーションセミナーを開催する予定。他団体と連携し、石巻市内の小中高生にむけた心のケアにも取り組んでいる。やれる事はまだまだ多くある。すべてのプロジェクトに関して一貫してある目標は、こうした活動によって、住民が自分たちで考えながら課題を解決していく「地域自治」につながること。地域に住む様々な人が気軽に足を運べる日常的な暮らしの動線のうえに、こうした相談ができる拠点をつくることも視野に入れている。「身近な人に対しても幸せになって欲しいと思う」。そう話す現在の平野さんの姿勢は力強く説得力があるが、いたって自然体だ。地域おこし協力隊の任期が満了する3年後、地域が目指す姿に少しでも近づいているよう、思いを持って身近な人を幸せにしてゆく活動をおこなっている。

### 平野さんのある1日

7:00	起床
8:30	自宅を出発
9:00	出社、掃除
9:30	社会福祉協議会と打ち合わせ
12:00	持参したお弁当でランチ
13:00	戸別訪問
16:00	訪問記録を作成
18:00	終業
19:00	帰宅 夕食
20:00	資料づくり、読書など
22:00	就寝



### 一般社団法人 ウィーアーワン北上

宮城県石巻市北上町十三浜字丸山37-1  
電話 0225-61-7713  
設立/2017年2月(活動開始2011年10月)  
スタッフ/8名  
[www.wao-kitakami.com](http://www.wao-kitakami.com)



## 子どもたちの気持ちを大切にした まちづくりを

子どもたちのやつてみたいという気持ちを大切に、安心できる居場所づくり

### 吉川 恭平

子どもにやさしいまちづくり

**吉川 恭平** よしかわ きょうへい

石巻市子どもセンターらいつの職員。NPO法人子どもにやさしいまちづくり代表理事。東京生まれ東京育ち。大学卒業を控えた2011年3月に東日本大震災が発生。大学での経験を活かし、震災直後から子ども支援団体スタッフとして遊び場づくりや学校支援などに従事。らいつには、2015年4月から勤務。趣味はサッカー、ボードゲーム。



子どもセンターらいつで子どもたちと遊ぶ吉川さん。



仕事の後に友人たちとボードゲーム。  
石巻での暮らしを楽しんでいる。

吉川恭平さんは生まれも育ちも生糸の東京人。大学院卒業を機に「子どもセンターらいつ」に就職。さらに1年半後には「NPO法人子どもにやさしいまちづくり」を立ち上げ、NPO法人ベビースマイル石巻とともに石巻市より同施設の指定管理を受ける。

今でこそ石巻市の子ども関連事業には欠かせない存在となっている吉川さんだが、大学入学時には子ども教育や支援とは無縁だった。大学では、趣味でもあったスポーツ関連の仕事に興味があり、実際に東京ヴェルディへのインターンなども経験。卒業後そのまま就職と考えていた所へ2011年の3月、東日本大震災が起こる。その後すぐ、お世話になっていた大学の先生からの紹介で、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとしで同月27日、東北へ入り、石巻市、釜石市、陸前高田市、山田町などで活動。

子どもと深く関わるきっかけはその後訪れた。小学4年生～高校生を対象に行ったアンケートに対し「まちのためににかしたい」という声があり、子どもまちづくりクラブの立ち上げに関わった。大学のゼミで子どもの権利条約について学んだ経験や、自治体が開催していたまちづくりについて考える子ども会議でのファシリテーション経験を活かした。

その後2012年まで東北での活動を続け一旦帰京。大学院の修士課程を終えたタイミングで、子どもまちづくりクラブの子どもた

ちが企画デザインした「石巻市子どもセンターらいつ」がスタッフを募集していた。子どもたちの主体性や居場所を大切にする運営方針に共感し応募、無事合格を果たし、2015年3月末に改めて石巻に移住した。

吉川さんの壁を作らないキャラクターは地域からも愛され、自然体での移住生活をできている。取材当日の休日には近隣の八百屋で野菜を購入。「車がなくても徒歩圏内ですべて揃うので不自由していません。ちなみにあの肉屋はスーパーよりも少し安いので、いつもお世話になっています」と笑った。ストレス解消の趣味の一つは料理で、他にはボードゲームなども。仕事後の時間には街に住む地元の友人や移住者たちと交流することもよくある。

年間のべ27,000人が訪れる「らいつ」。開設から2019年で5年が経過し、ここでの活動を経た子どもが職員として戻って来てくれたケースも現れ始めた。「らいつが大事にして来たコンセプトをこれからも大事にして運営にあたりたい」と語る吉川さん。今後の「子どもにやさしいまちづくり」の事業展開としては、同施設の運営のほか、どのように子どもにやさしいまちをつくっていくか、行政と民間が一緒に考える機会づくりや、子どもたちの声を地域や行政に届ける取り組みもしていかければと語る。2019年夏からは婚約者も移住し、石巻市で家庭を築いていく予定だ。

### 吉川さんのある1日

7:00	起床
8:30	出社
9:00	施設の掃除・ミーティング
9:30	乳幼児親子の対応
12:00	ランチ
12:45	デスクワーク (イベントチラシの作成、ワークショップの企画など)
15:00	小学生の対応
16:00	商店街の人と打ち合わせなど
17:00	小中高生利用者の対応
17:45	退社
18:00	子ども関連外部事業者とのミーティングなど
20:00	ボードゲーム、飲み会など
22:30	帰宅
24:00	就寝

NPO法人 子どもにやさしいまちづくり

### NPO法人

### 子どもにやさしいまちづくり

宮城県石巻市中央3丁目5-22

E-mail: i.kodomachi@gmail.com

設立/2016年8月

会員/11名

<https://kodomachi.jimdo.com>



PHOTO : TOMOYUKI KUSUNOSE

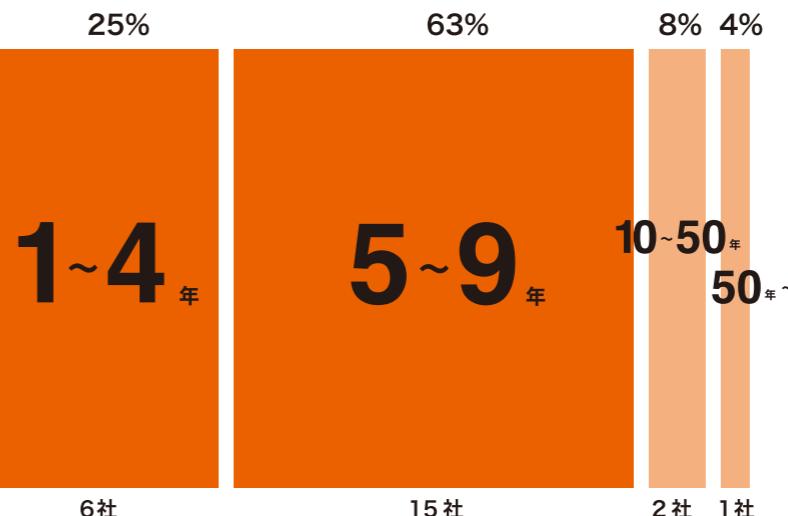
# 3

## 石巻ローカルベンチャーリサーチ 2019

石巻市内のローカルベンチャー事業者24社にヒアリングし、その特徴、創業の背景、傾向をリサーチしました。

## 石巻のローカルベンチャーとは？

### 創業年数はどれくらい？



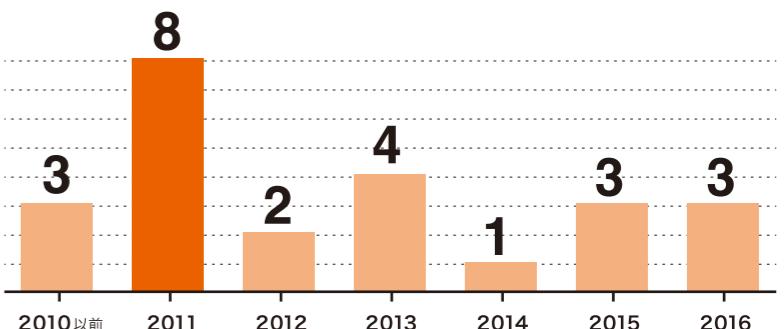
### 東日本大震災を契機に生まれた石巻のローカルベンチャー

リサーチの結果、石巻のローカルベンチャーは創業から5~9年経過した事業者の割合が60%超を占めることがわかりました。次に多い1~4年は25%で、1~4年と合わせると88%に達します。10年以上経過した事業者も数社ありましたが、ほとんどが創業から10年未満の事業者です。石巻のローカルベンチャーは、2011年の東日本大震災以降に生まれた事業者が主体となって活動していると言えます。

### いつ創業したの？

#### 震災3年後、創業はピークに

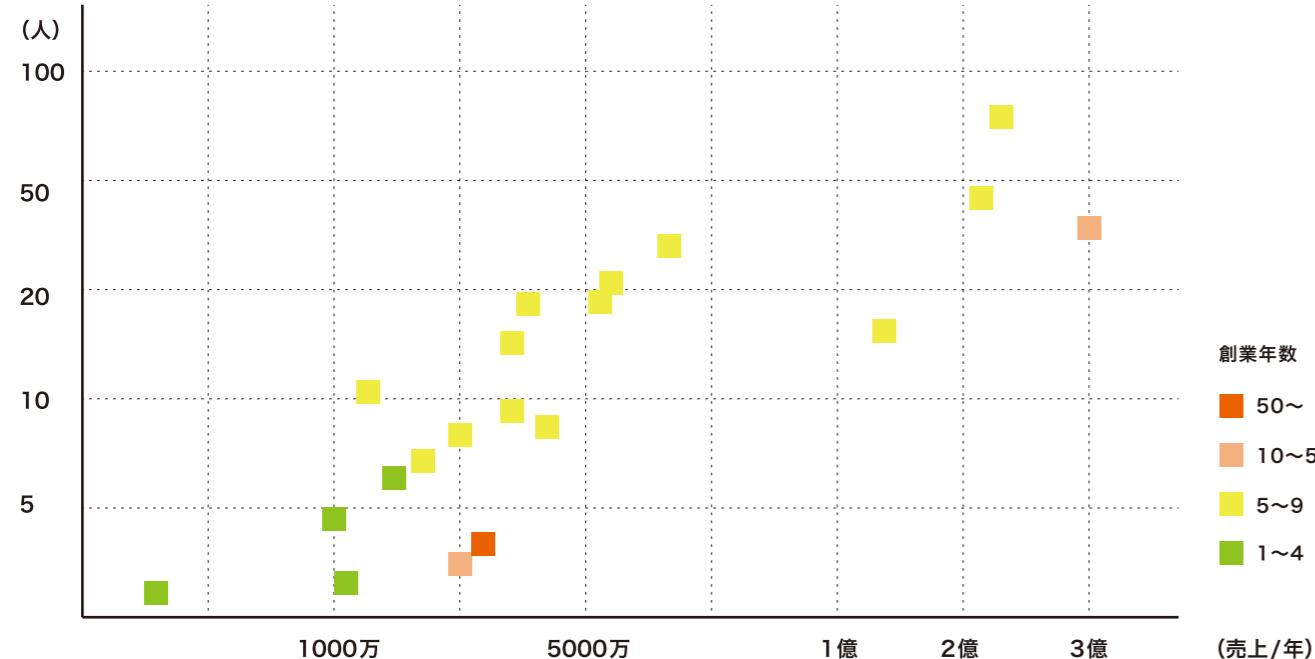
2010年以前が3件なのに対し、震災の年である2011年は8件です。その後の推移が興味深く、2012年に2件、2013年に4件となり、その後横ばいです。震災をきっかけに石巻のローカルベンチャーが活性化された事は言うまでもありませんが、そのタイミングが直後ではなく、状況がある程度落ち着いた3年後という点は特徴的な傾向だと言えます。



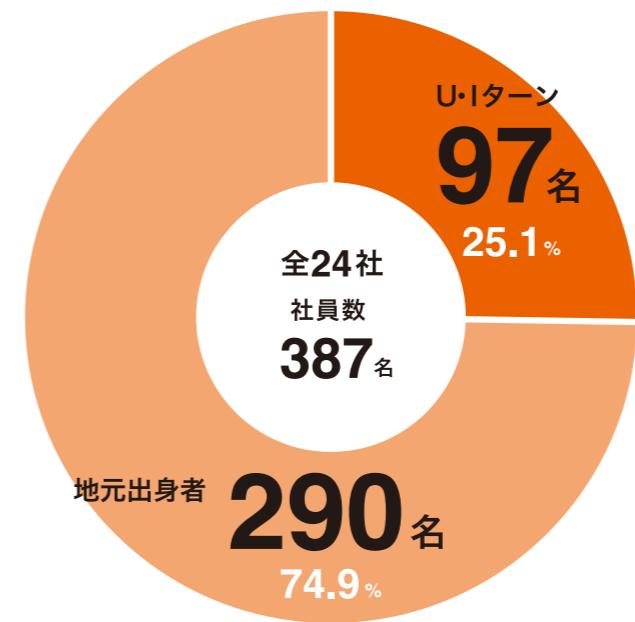
【ヒアリング対象事業者】 \*印は昨年度からの継続調査対象

フィッシャーマン・ジャパン*	一般社団法人ピースボートセンターいしのまき*	愛さんさんビレッジ株式会社*
今野相包株式会社*	株式会社石巻工房*	株式会社田伝むし*
公益社団法人 MORIUMIUS*	一般社団法人日本カーシェアリング協会*	Funade
株式会社草新舎*	一般社団法人石巻・川の上プロジェクト*	株式会社海遊
一般社団法人イシノマキ・ファーム*	NPO法人TEDIC*	一般社団法人ISHINOMAKI2.0
NPO法人かぎかっこPROJECT*	クマガイサイクル*	合同会社巻組
一般社団法人おしかリンク*	一般社団法人はまのね*	イトナブ
Tree Tree Ishinomaki*	一般社団法人りぶらす*	一般社団法人ウィーアーワン北上

## 規模はどのくらい？



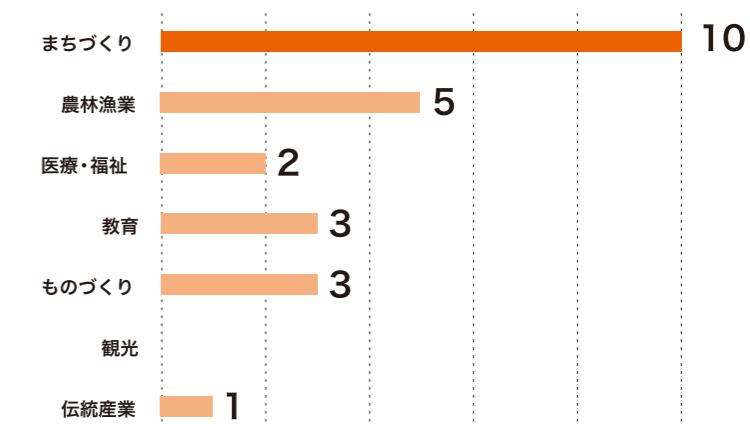
## U・Iターンの割合は？



## どんな分野が多いの？

### 多様なまちづくり

石巻のローカルベンチャーは多様な分野に進出していますが、その中で最も多く分類されたのがまちづくりです。ここではまちづくりを異分野の事業を複数おこなう事業者と定義しています。その次に農林漁業が続きます。創業年でわかる通り、石巻のローカルベンチャーは震災の影響を強く受けしており、分野も関係する傾向があります。の中でもまちづくりと農林漁業は代表格といえる存在です。



## 事業の変化

スタッフ数に変化はあったか?

増加した

平均  
**10.5**名増  
6社  
25%

- 新規事業として拠点がスタートしたため
- パートタイムから正スタッフに変わるキャリアアップ制度を始めたため
- 新規事業がはじまり出向職員が増えたため
- かねてからの利用者を職員として新卒採用したため

12

変化なし

平均  
**2.4**名減  
6社  
25%

減少した

- 拠点を閉鎖したため
- 動く時期、動かない時期を明確にしたため
- 事業が進歩すると、スタッフが独立していくため

## 新規事業

あり  
**12**

4 具体的に準備中

なし  
**8**

例えば

**石巻市農業担い手センター開設**  
一般社団法人イシノマキ・ファーム



築約140年の古民家を改修した農業の担い手を目指す移住者の受け入れ拠点。一般社団法人イシノマキ・ファームが運営する。シェアハウスの機能を備え、就農希望者が住み込みで農業を体験できる。

**ローカルリンクカレッジ**  
一般社団法人おしかリンク



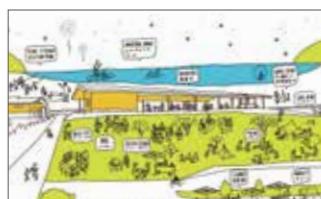
大学生と大人が一緒になって、牡鹿半島で大小問わず様々なプロジェクトを起こし、実践のプロセスから学ぶベンチャーカレッジ。プロジェクトに投資することで、人材育成と同時に地域活性の効果を狙う。

**コミュニティ・カーシェアリング**  
一般社団法人日本カーシェアリング協会



震災後の石巻で行ってきた、ご近所さん同士で車を共同利用することを通じてコミュニティを育む事業を石巻外の地域へ拡大。現在、岡山や鳥取の一部地域で導入の動きが進められている。

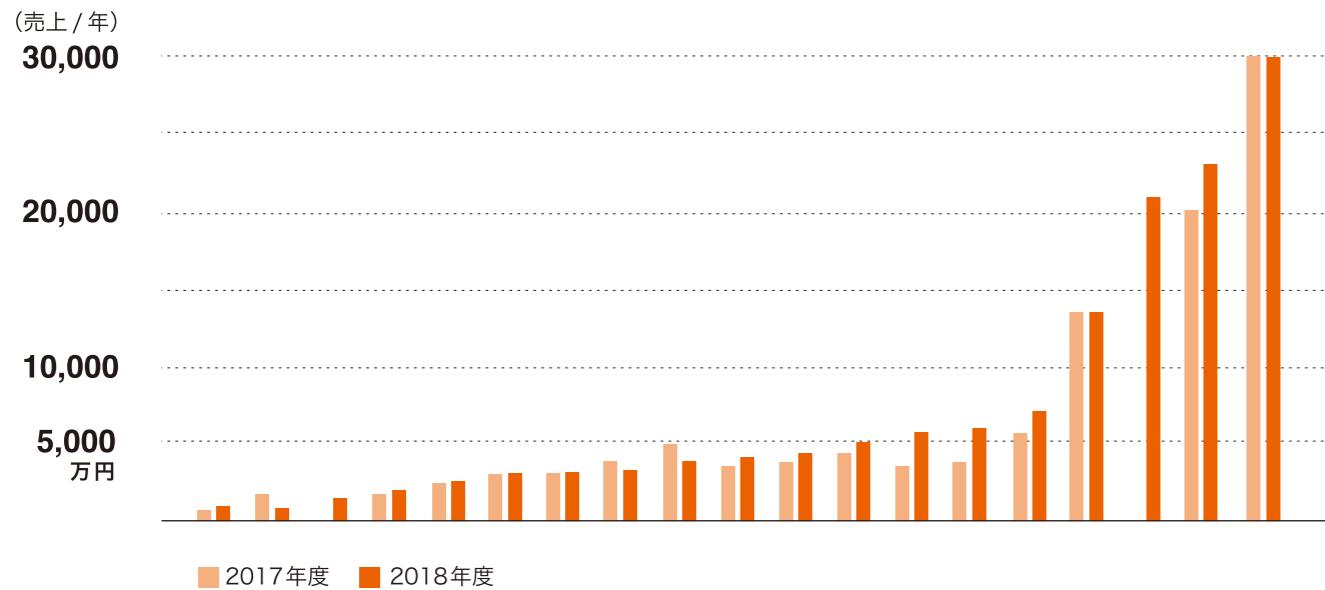
**白浜ビーチパークオープン**  
一般社団法人ウィーアーワン北上



石巻市が北上地区に整備したビーチパーク。ウィーアーワン北上のコーディネートにより地域住民の思いやアイディアを事業プランに組み入れた、魅力ある観光資源としての運営を目指す。

各事業者にむけて、2018年度に本格化した新規事業をヒアリング。4社は準備中と回答しましたが、約半数が新規事業をスタートしたと答えました。行政と協働して拠点やサービスを立ち上げたり、事業モデルを他地域に展開させたりといった新事業が多くみられました。新たに拠点の立ち上げをした事業者はスタッフ数の増加も傾向としてみられます。

## どのくらいの成長があったか？



**11**  
24

売上増

**8**  
24

売上減

**2**  
24  
変化なし

**3**  
24  
不明

平均1,181万円増

平均773万円減

## 事業は順調にいっていると感じているか？



- 事業収益のみで持続可能になっている
- 地域との協調がうまくいっている
- 助成金を断ち、動く時期、動かない時期を明確にした
- 新しいことにチャレンジできている
- 取引先が増えた
- 問題に対処する経験値が上がっている
- つぎに進める余力が出て来ている

現在の事業が順調にいっていると回答する事業者が75%に及びました。順調にいっているかどうかの判断は、主に現在の事業モデルが助成金を介さず事業収入のみで持続可能なモデルになっているかどうかで判断されることが多いようです。また新たな事業に挑戦する余裕ができたことで順調だと判断する事業者もいました。



- ニーズがみえづらい
- 助成金に頼らず事業化する事が実現出来ていない
- 仕事に見合った人件費を払えていない



現在の事業がうまくいっていないと回答したのは16%ほどです。事業が順調ではないと感じる主な理由としては、助成金に多くを依存する場合や事業のニーズがみえづらいということが挙げされました。



PHOTO : RYUTA YAGUCHI

# 4

## ハグクミ ローカルベンチャーサポートプログラム紹介

### コンソーシアム ハグクミ

ISHINOMAKI 2.0、イトナブ、巻組、石巻観光協会の4社による共同事業体。移住・定住の促進、ローカルベンチャーの推進、空き家活用、地域の情報発信など、多岐に渡る事業を展開している。国内10以上の自治体が参加する「ローカルベンチャー推進協議会」の石巻事務局を務める。



### 01 石巻まちのコンシェルジュ

2016年度よりスタートした移住者の暮らしや住まい、仕事に関するサポートを担う移住コンシェルジュ。創業のサポートや事業用物件の案内もおこなう。「つなげる」をキーワードに、石巻の魅力や情報を相談者に届ける。2018年度までで131件の相談があり、27名が移住した。

#### ウミネコキャラバン

まちのコンシェルジュがおくる石巻のお試し体験ツアー。石巻の暮らしを気軽に体験できるオリジナルプログラム。

[問い合わせ]

コンソーシアム ハグクミ  
(一般社団法人ISHINOMAKI2.0)

電話:0225-90-4982

メール:navi@ishinomaki2.com

窓口:石巻市中央2丁目10-2 新田屋ビル1階 IORI石巻



### 02 東京脱出旅行社石巻支店

石巻の魅力ある仕事体験を通して、新たな価値観に出会いきっかけを作るためのプロジェクト。石巻のここにしかない「仕事体験」を提供する旅行社。石巻で働いてみたい方、旅のように仕事体験をしてみませんか。ハグクミの新プログラム。

<http://goodbytokyo.com/>



### 03 石巻2025会議

さまざまなテーマで石巻の未来を話し合う公開座談会。グラフィックレコーディングを行いながら議論を進め、誰でも自由に参加することができる。懇親会も行い、地域住民と移住者が交流できる場となっている。2018年度は「地域経済」「子育て」「文化・歴史」「コミュニティ」というテーマで開催した。



[問い合わせ]  
コンソーシアム ハグクミ  
(一般社団法人ISHINOMAKI2.0)  
電話: 0225-90-4982  
メール: navi@ishinomaki2.com  
企画: 合同会社デザインナギ

### 05 石巻版松下村塾

石巻でチャレンジをする起業家を輩出するために生まれたスタートアップ支援講座。事業計画のブラッシュアップやブランドイメージづくりのノウハウ、資金繰りに必要な事業計画書の作成方法等、特別講師によるレクチャーとあわせて、コーディネーターが事業の立ち上げに伴走して支援する。

<https://makigumi.wixsite.com/syoukasonjuku>



[問い合わせ]  
コンソーシアム ハグクミ  
(合同会社巻組)  
電話: 0225-24-6919  
メール: info@makigumi.com

### 04 とりあえずやってみよう大学

University of "Don't Think, Feel" =「とりあえずやってみよう」という建学精神のもと東京で開校するセミナープログラム。石巻のユニークな起業家たちが講師となって、立ち止まらずに「とりあえずやってみる」人を輩出することを目指す。

<http://ishinomaki-iju.com/udtf/>



[問い合わせ]  
コンソーシアム ハグクミ  
(合同会社巻組)  
電話: 0225-24-6919  
メール: info@makigumi.com

### 06 石巻オモシロ不動産大作戦

石巻で心うごくままに事業を始める「オモシロイ」起業家の生活と仕事の拠点を増やすためのプロジェクト。「マッチング」「起業支援」「リノベーション」の3点から空き家活用を場づくりのプロフェッショナルが全力で支援する。石巻にはまだまだ活用されないまま眠っている資産が沢山。空き家を活用して「何か」を始めたい参加者を募集中。

[問い合わせ]  
コンソーシアム ハグクミ  
(合同会社巻組)  
電話: 0225-24-6919  
メール: info@makigumi.com



## 07 NEXT HERO ISHINOMAKI

石巻でチャレンジする人びとを「ヒーロー」として紹介するウェブサイト。チャレンジができる街石巻で、活躍するヒーローが行なっている活動からライフスタイル、日々感じるリアルな想いをインタビュー形式で掲載。ヒーロー一人一人の視点から石巻の魅力を伝える。

<http://nexthero.jp/>



[問い合わせ]  
コンソーシアム ハグクミ  
(一般社団法人イトナビ石巻)  
メール : info@itnav.jp

## 08 ホームページ「石巻を選ぶ」

ハグクミの最新情報はこちらから

石巻のくらし方ガイド。石巻に移住を検討している方にむけ、石巻のイベント情報や、住まい、働き方など、気になる情報を随時発信。ローカルベンチャーサポートプログラムの最新情報も発信しています。

<http://ishinomaki-iju.com/>



## 石巻ローカルベンチャー白書2019

2019年3月31日 第1刷

### 編 集

勝 邦義(一般社団法人ISHINOMAKI2.0)

### デザイン

遠藤 和紀(合同会社デザインナギ)

### 撮 影

古里 裕美

### リサーチ

一般社団法人ISHINOMAKI2.0

### 合同会社巻組

### 発 行

コンソーシアム ハグクミ

平成30年石巻市地域活躍支援推進事業

### 連絡先

一般社団法人ISHINOMAKI2.0

〒986-0822 宮城県石巻市中央二丁目10-2

電話 0225-90-4982 fax.0225-90-4983

<http://ishinomaki-iju.com/>

[navi@ishinomaki2.com](mailto:navi@ishinomaki2.com)

### 取り扱いについて

本書の内容の一部あるいは全部を無断転載・複写・複写・インターネット上へ掲載することは、著作権法上認められている場合を除き、禁じられています。本書のデータを引用する場合は、必ず出典を明記いただき、ハグクミまでお知らせください。